

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジン メイオウダイガク 公立大学法人 名桜大学									
フリガナ大学の名称	メイオウダイガクダイガクイン 名桜大学大学院 (Graduate School of Meio University)									
大学本部の位置	沖縄県名護市字為又1220番地の1									
大学の目的	本大学院は、広い視野に立って精深な学識を授け、高度の専門性を要する職業等に必要 高度の能力及び専攻分野における研究能力を養うことを目的とする。									
新設学部等の目的	本博士後期課程では、沖縄の歴史や文化に根差したケアリングの理解をもとに、人々の健 康と生活の質向上のための看護学研究を自律して行い、看護学の発展に寄与する高度な研究 能力を有する教育研究者の育成を目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	開設時期及 び開設年次	所在地		
	看護学研究科 (Graduate School of Nursing) 看護学専攻博士後期課程 (Doctoral Program in Nursing Science) 計	3 年	2 人	- 人	6 人	博士 (看護学) (Doctor of Philosophy in Nursing Science)	令和4年4月 第1年次	沖縄県名護市為又字 1220番地の1		
【基礎となる学部等】 ・人間健康学部 看護学科 ・看護学研究科 看護学専攻（修士課程） 14条特例の実施										
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		令和4年4月名称変更予定 看護学研究科看護学専攻修士課程 → 看護学研究科看護学専攻博士前期課程								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程)	講義	演習	実験・実習	計	16単位				
		5科目	6科目	1科目	11科目					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任 教員等	
	新設 分	看護学研究科	14人 (14)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	16人 (16)	0人 (0)	6人 (6)	
		看護学専攻（博士後期課程）	14 (14)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	- (-)	
	既設 分	国際文化研究科	27 (27)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	15 (15)	
		国際文化システム専攻（修士課程）	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	1 (1)	
		国際文化研究科	16 (16)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	16 (16)	
		国際地域文化専攻（博士後期課程）	16 (16)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	16 (16)	
		看護学研究科 看護学専攻（修士課程）	52 (52)	19 (19)	0 (0)	0 (0)	71 (71)	0 (0)	- (-)	
計		66 (66)	21 (21)	0 (0)	0 (0)	87 (87)	0 (0)	- (-)		
合計		66 (66)	21 (21)	0 (0)	0 (0)	87 (87)	0 (0)	- (-)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計			大学全体	
	事 務 職 員		52人 (52)	34人 (34)	86人 (86)				
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)	0 (0)	3 (3)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計		55 (55)	34 (34)	89 (89)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			大学全体	
	校 舎 敷 地	45,570 m ²	0 m ²	0 m ²	43,994 m ²				
	運 動 場 用 地	17,465 m ²	0 m ²	0 m ²	17,465 m ²				
	小 計	63,035 m ²	0 m ²	0 m ²	61,459 m ²				
	そ の 他	191,087 m ²	0 m ²	0 m ²	193,032 m ²				
	合 計	254,122 m ²	0 m ²	0 m ²	254,491 m ²				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			大学全体		
	28,699 m ² (28,699 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	28,699 m ² (28,699 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体	
	47室	22室	10室	6室 (補助職員 - 人)	1室 (補助職員 - 人)				
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数			大学全体		
	看護学研究科看護学専攻 (博士後期課程)			16 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での 共用分 図書：168,727 〔39,770〕 学術雑誌 9,462〔7,041〕 電子ジャーナル 6,617〔5,163〕 視聴覚資料 3,427	
	看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程)	11,967〔1,669〕 (11,267〔1,169〕)	2,820〔1,317〕 (2,820〔1,317〕)	2,760〔1,306〕 (2,760〔1,306〕)	684 (644)	456 (446)	12 (12)		
	計	11,967〔1,669〕 (11,267〔1,169〕)	2,820〔1,317〕 (2,820〔1,317〕)	2,760〔1,306〕 (2,760〔1,306〕)	644 (644)	446 (446)	12 (12)		
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体	
	3,708 m ²		314 席		300,000 冊				
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	1,770.4 m ²		多目的広場、野球場1面、武道場 テニスコート2面、屋内プール、トレーニング室						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での 算出不能なため 学部との合計 大学全体 図書費には、電子 ジャーナル、デー タベースの整備費（運 用コスト含む）を 含む
	教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	-	-	-	
	共同研究費等		14,984千円	14,984千円	14,984千円	-	-	-	
	図 書 購 入 費	2,600千円	1,800千円	1,600千円	250千円	-	-	-	
	設 備 購 入 費	900千円	400千円	400千円	400千円	-	-	-	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	地域内 地域外	
		660千円	535千円	535千円	- 千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		運営交付金、雑収入等							

既設大学等の状況	大学の名称	名城大学							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
	国際学群 国際学類	年	人	年次人	人		倍		沖縄県名護市字為又1220番地の1
		4	280	15	1,150	学士(国際文化学) 学士(経営情報学) 学士(観光産業学)	1.06 1.06	平成19年度	
	人間健康学部 スポーツ健康学科 看護学科	4	175	10	720	学士(スポーツ健康学)	1.05	平成17年度	
		4	95	5	390	学士(看護学)	1.06	平成19年度	
		4	80	5	330		1.04	平成19年度	
	大学院 国際文化研究科 (修士課程)	2	6	-	12	修士(国際文化)	1.24	平成13年度	
	国際文化研究科 国際地域文化専攻 (博士後期課程)	3	2	-	6	博士(国際地域文化)	2.00	平成31年度	
	看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	6	-	12	修士(看護学)	0.91	平成23年度	
附属施設の概要	<p>○多目的ホール(鉄筋コンクリート3階建) 目的: 多目的施設(IT技術者の育成, デジタルコンテンツの制作・配信, 教育研究等イベント対応) 所在地: 沖縄県名護市字為又1220番地の1 設置年月日: 平成11年5月 規模: 2,872㎡</p> <p>○留学生センター(鉄筋コンクリート4階建) 目的: 外国人留学生等の寄宿 所在地: 沖縄県名護市字為又1220番地の1 設置年月日: 平成12年3月 規模: 2,099㎡</p> <p>○環太平洋地域文化研究所(鉄筋コンクリート2階建) 目的: 学際的研究 所在地: 沖縄県名護市字為又1220番地の1 設置年月日: 平成12年3月 規模: 847㎡</p> <p>○北部生涯学習推進センター(鉄筋コンクリート2階建) 目的: 生涯学習・地域振興に資する人材育成, 産官学連携事業等 所在地: 沖縄県名護市字為又1220番地の1 設置年月日: 平成16年9月 規模: 6,196㎡</p> <p>○北部地域看護系医療人材育成支援施設(鉄筋コンクリート3階建) 目的: 看護専門職に資する人材育成等 所在地: 沖縄県名護市字為又1220番地の1 設置年月日: 平成21年3月 規模: 3,762㎡(図書室144㎡, 36席含む)</p> <p>○学生会館SAKURAUM(鉄筋コンクリート6階建) 目的: 教員、職員、学生が自立的に学習できる環境の実現 所在地: 沖縄県名護市字為又1220番地の1 設置年月日: 平成26年12月 規模: 6,191㎡</p>								

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(看護学研究科看護学専攻 (D))														
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共 通 科 目	看護学研究特論	1前	2			○			2	1				兼2 兼2 兼1 兼1 兼6
	沖縄のケアリング文化と看護	1前	2			○			6					
	沖縄の保健看護政策特論	1後		2		○			2					
	生体環境看護科学特論	1後		2		○			4	1				
	看護教育学特論	2前	2			○			1					
	小計 (5科目)	—	6	4	0	—			10	1	0	0	0	
専 門 科 目	基盤看護学	看護キャリア開発学特論	1通		2			○	1					・共同 ・オムニバス・共同 (一部) ・オムニバス・共同 (一部) ・オムニバス・共同 (一部) ・オムニバス・共同 (一部)
	応用看護学	がん看護学特論	1通		2			○	1	1				
		成育健康看護学特論	1通		2			○	4					
	生活支援看護学	地域包括看護学特論	1通		2			○	5					
		精神保健看護学特論	1通		2			○	1	1				
小計 (5科目)		—	0	10	0	—			12	2				
科 研 目 究	看護学特別研究	1~3通	6					○	12	2				
	小計 (1科目)		—	6	0	0	—			12	2	0	0	0
合計 (11科目)		—	12	14	0	—			14	2	0	0	0	兼4
学位又は称号		博士 (看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係 (看護学関係)						
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法							授 業 期 間 等							
(修了要件) 本研究科に3年以上在籍し、所定の単位(16単位以上)を修得するとともに必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 (履修方法) (1) 共通科目から4科目8単位 (必修科目3科目6単位を含む。) を履修する。 (2) 専門科目から1科目2単位を選択し履修する。 (3) 研究科目から1科目6単位を必修科目として履修する。							1 学年の学期区分			2 学期				
							1 学期の授業期間			15 週				
							1 時限の授業時間			90 分				

教育課程等の概要																
(看護学研究科看護学専攻 (M))																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	必修科目	看護理論	1	2		○			5	2						
		看護学研究方法論Ⅰ	1	2		○			3							
		看護学研究方法論Ⅱ	1	2		○			1		1				兼1	
	選択科目		沖縄のケアリング文化	1		1	○			2						兼1
			看護教育学	1		2	○			2	1					兼1
			看護倫理学	1		1	○			1						兼1
			看護管理学	1		2	○			1						
			コンサルテーション論	1		2	○			1						兼1
			ヘルスプロモーション論	1		2	○			1						
			包括的健康アセスメント	2		2	○			2	1					兼1
			健康栄養学	1		2	○			1						
			病態生理学	1		2	○			2						
		英語講読	1		2	○			1							
	小計 (13 科目)	—	6	18	0				23	4	1	0	0	兼6		
専門科目	基盤看護学分野	基盤看護学特論Ⅰ	1		2	○			1							
		基盤看護学特論Ⅱ	1		2	○			1							
	臨床看護学分野	臨床看護学特論Ⅰ	1		2	○	○		10		1				兼4	
		臨床看護学特論Ⅱ	1		2	○	○		10		1				兼5	
		小計 (4 科目)	—	0	8	0				22	0	2	0	0	兼9	
演習・研究科目	専門演習	1	4				○		10		1					
	特別研究	2	8				○		10		1					
	小計 (2 科目)	—	12	0	0				52	0	5	0	0			
合計 (19 科目)			—	18	26	0	—		97	4	8	0	0	兼15		
学位又は称号		修士 (看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係)								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p>○修了要件は、大学院に2年以上在学し、研究科所定の科目を30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。</p> <p>○共通科目 共通必修科目：必修科目3科目6単位を履修すること。 共通選択科目：4科目8単位以上履修すること。うち4単位は、国際文化研究科の共通科目や教育研究領域科目から履修することができる。</p> <p>○専門科目 基盤看護学分野または臨床看護学分野のいずれかを選択し、特論Ⅰ及び特論Ⅱの2科目4単位以上履修すること。</p> <p>○演習・研究科目 専門演習4単位、特別研究8単位を履修すること。</p>								1学年の学期区分		2期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要

(人間健康学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通 科目	アカデミック	教養演習Ⅰ	1・2・3・4	2				○		7	7	11	4		
		教養演習Ⅱ	1・2・3・4	2				○		7	7	11	4		
		コンピュータ・リテラシー	1・2・3・4	2					○				1		兼6
		アカデミックライティングⅠ	1・2・3・4	2				○		5	1	3			兼2
		アカデミックライティングⅡ	1・2・3・4	2				○		5	1	3			
		アカデミックスキル特別講義	1・2・3・4	2				○							
		小計（6科目）		8	4					24	16	29	8	0	兼8
	デザイン	大学と人生	1・2・3・4	2				○		1					
		ライフデザイン特別講義	1・2・3・4	2				○							
		キャリアデザイン	1・2・3・4	2				○							兼1
		プロジェクト学習	1・2・3・4	2				○		1	2	1			
		小計（4科目）		2	6					2	2	1	0	0	兼1
	思想と論理	人間と環境	1・2・3・4	2				○		1					
		生命と倫理	1・2・3・4	2				○							兼1
		科学入門	1・2・3・4	2				○				1			
		論理学	1・2・3・4	2				○		1					
		現代思想	1・2・3・4	2				○			1				
		思想と論理特別講義	1・2・3・4	2				○							
		小計（6科目）		0	12					2	1	1	0	0	兼1
	沖縄理解	沖縄学	1・2・3・4	2				○			2				
		沖縄の自然	1・2・3・4	2				○							兼1
		沖縄の言語	1・2・3・4	2				○							兼1
		沖縄理解特別講義	1・2・3・4	2				○							
小計（4科目）			0	8					0	2	0	0	0	兼2	
健康スポーツ	体育実技Ⅰ	1・2・3・4	1					○	2		3			兼1	
	体育実技Ⅱ	1・2・3・4	1					○		1	2				
	健康・スポーツ科学	1・2・3・4	2				○		1						
	健康スポーツ特別講義	1・2・3・4	2				○								
	健康スポーツ特別実技	1・2・3・4	1					○							
	小計（5科目）		0	7					3	1	5	0	0	兼1	
共通 選択 科目	外国語	ベーシック・イングリッシュ	1・2・3・4	2			○				1	1		兼7	
		イングリッシュ・コミュニケーション	1・2・3・4	2			○					2	1	兼3	
		ドイツ語Ⅰ	1・2・3・4	2			○							兼1	
		ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4	2			○							兼1	
		フランス語Ⅰ	1・2・3・4	2			○							兼1	
		フランス語Ⅱ	1・2・3・4	2			○							兼1	
		スペイン語Ⅰ	1・2・3・4	2			○					1		兼3	
		スペイン語Ⅱ	1・2・3・4	2			○					1		兼2	
		ポルトガル語Ⅰ	1・2・3・4	2			○			1					
		ポルトガル語Ⅱ	1・2・3・4	2			○			1					
		中国語Ⅰ	1・2・3・4	2			○			1	2			兼1	
		中国語Ⅱ	1・2・3・4	2			○			1	2			兼1	
		韓国語Ⅰ	1・2・3・4	2			○				1			兼1	
		韓国語Ⅱ	1・2・3・4	2			○				1			兼1	
		タイ語Ⅰ	1・2・3・4	2			○							兼1	
		タイ語Ⅱ	1・2・3・4	2			○							兼1	
		外国語特別講義Ⅰ	1・2・3・4	2			○				2			兼1	
		外国語特別講義Ⅱ	1・2・3・5	3			○							兼1	
		アカデミック英語基礎	2・3・4	2			○			1		1	1		
		プラクティカル・イングリッシュⅠ	2・3・4	2			○								兼1
		プラクティカル・イングリッシュⅡ	2・3・4	2			○								兼1
		ビジネス英語Ⅰ	2・3・4	2			○						1		
		ビジネス英語Ⅱ	2・3・4	2			○						1		
小計（23科目）		6	41						5	8	7	4	0	兼29	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
教養教育科目 共通選択科目	国際理解	国際学入門	1・2・3・4	2		○			1	1						
		異文化接触論	1・2・3・4	2		○			1	1						
		国際社会と日本	1・2・3・4	2		○			1	1						
		人権と平和	1・2・3・4	2		○			1	1						
		国際コミュニケーション論	1・2・3・4	2		○										兼1
		海外スタディツアー	1・2・3・4	2				○		1	1	1				
		国際理解特別講義	1・2・3・4	2			○									
	小計 (7 科目)		0	14					4	5	1	1	0		兼1	
	人文学	音楽の歴史と鑑賞	1・2・3・4	2			○									兼1
		美術の歴史と鑑賞	1・2・3・4	2			○									
		哲学	1・2・3・4	2			○			1						
		心理学	1・2・3・4	2			○			1		1				
		歴史学	1・2・3・4	2			○									兼1
		教育学	1・2・3・4	2			○									兼1
		ヒューマンケアリング	1・2・3・4	2			○			6	2	3	2			
		文学	1・2・3・4	2			○			2						
		人文学特別講義	1・2・3・4	2			○									
		小計 (9 科目)		0	18					10	2	4	2	0		兼3
	社会科学	法学	1・2・3・4	2			○									兼1
		憲法	1・2・3・4	2			○			1						兼1
		政治学	1・2・3・4	2			○									兼1 集中
		経済学	1・2・3・4	2			○				1					
		経営学	1・2・3・4	2			○					1				
		社会学	1・2・3・4	2			○									兼1
		人文地理学	1・2・3・4	2			○					1				
		社会科学特別講義	1・2・3・4	2			○									
	小計 (8 科目)		0	16					1	1	2	0	0		兼4	
	自然科学	数学	1・2・3・4	2			○			1						
		統計学	1・2・3・4	2			○									兼1
		物理学	1・2・3・4	2			○					1				
		化学	1・2・3・4	2			○			1						
		生物学	1・2・3・4	2			○									兼1
		地学	1・2・3・4	2			○									兼1
		情報科学と社会	1・2・3・4	2			○			1						兼1
		自然科学特別講義	1・2・3・4	2			○			1						
小計 (8 科目)		0	16					4	0	1	0	0		兼4		
専門基礎教育科目 専門基礎分野	疾病の回復の促進 人体の構造と機能・ の成り立ちと	解剖生理学Ⅰ	1	2			○			1	1				兼1	
		解剖生理学Ⅱ	1	2			○			1	1				兼1	
		病態生理学(含:病理学)	1	2			○			1						
		栄養・生化学	1	2			○			1						
		精神保健	2	2			○			1	2					
		病態治療学Ⅰ(内科系疾患)	2	2			○			2			1		兼8	
		病態治療学Ⅱ(外科系疾患)	2	2			○				1				兼9	
		症候学Ⅰ	3	1			○			1						
		症候学Ⅱ	4		1		○			1						
		臨床薬理学	2	2			○									兼1
		微生物学	2	1			○									兼2
	小計 (11 科目)		18	1					3	3	0	1	0		兼21	
	健康支援と社会 保障制度	人間関係論	1	1			○			1						兼1
		人間発達論	1	1			○									兼1
		家族社会学(含:ジェンダー論)	1		2		○									兼1
		医療英語	1	2			○									兼1
		公衆衛生学	2	1			○				2					
		保健統計学	2	2			○				1					
		疫学	2	2			○				1					
		保健福祉行政論Ⅰ	2	2			○									兼1
		保健福祉行政論Ⅱ	2	2			○			1						兼1
産業保健学		2	1			○									兼2	
保健行動論	2		1		○				1							
小計 (11 科目)		8	9					2	2	0	0	0		兼6		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門分野	基礎看護学	看護学概論(含:看護援助論)	1	2		○			1							
		セルフケア論	1	1		○			1	1		1				
		セルフケア援助技術	1	2			○		1	1		1				
		療養生活援助技術	2	2			○		1	1		1				
		基礎看護総合演習	2	1			○		1	1		1				
		看護実践方法論	2	1			○		1	1		1				
		フィジカルアセスメント	2	2			○		1	1		1				
	小計(7科目)		11	0	0				1	1	0	1	0			
	地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論	1	1			○		1	2						
		沖縄の文化と看護	1	1			○		1	2						
		地域包括ケア論	2	1			○		1							
		地域・在宅看護方法論	3	2				○	1							
		島嶼保健看護論	4	1			○			1						
	小計(5科目)		6	0	0				2	3	0	0	0			
	成人看護学	成人看護学概論	2	1			○		1	2						
		がん看護論	3	1			○			1						
		成人看護学方法論Ⅰ	3	2				○		2						
		成人看護学方法論Ⅱ	3	2				○	1	1		1				
	小計(4科目)		6	0	0				1	3	0	1	0			
看護高齢者	高齢者看護学概論	2	1			○		1							兼5	
	老年学	2	1			○		1							兼5	
	高齢者看護方法論	3	2				○		2							
	小計(3科目)		4	0	0				1	2	0	0	0		兼5	
小児看護学	小児看護学概論	2	1			○		1							兼1	
	病態治療学Ⅲ(小児疾患)	2	1			○		1							兼1	
	小児看護方法論	3	2				○	1							兼1	
	小計(3科目)		4	0	0				1	0	0	0	0		兼1	
母性看護学	母性看護学概論	2	1			○		2	1		1					
	病態治療学Ⅳ(母性疾患)	2	1			○		1							兼1	
	母性看護方法論	3	2				○	2	1		1					
	小計(3科目)		4	0	0				2	1	0	1	0		兼1	
精神看護学	精神看護学概論	2	1			○		1	2						兼1	
	病態治療学Ⅴ(精神疾患)	2	1			○									兼1	
	精神看護方法論	3	2				○	1	2							
	小計(3科目)		4	0	0				1	2	0	0	0		兼1	
専門分野	看護の統合と実践	看護倫理	3	1			○		1							兼1
		キャリアデザインⅠ	1	1			○					1				
		キャリアデザインⅡ	2	1			○			1						
		キャリアデザインⅢ	3	1			○					1				
		キャリアデザインⅣ	4	1			○			1						
		緩和ケア論	3	1			○			1						
		感染看護論	2	1			○					1				兼2
		看護研究方法	3	1			○			1						
		卒業研究	4	2				○	6	9		2				
		看護実践と理論	4	1			○		1							
		看護マネジメント論	4	1			○		1							
		家族看護学	2	1			○		3	1						
		グローバルナーシングⅠ	2	1			○		1							
		グローバルナーシングⅡ	2・3・4	2				○	1							
		グローバルナーシングⅢ	2	2			○		1							
		災害看護学Ⅰ	2	1			○		1							
		災害看護学Ⅱ	4	1				○		1						兼2
		公衆衛生看護学概論Ⅰ	2	1			○		1	3						
		公衆衛生看護学概論Ⅱ	2	1			○		1	3						
小計(19科目)		15	7	0				7	9	0	2	0		兼5		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨地実習	ケアリング文化実習Ⅰ	1	1					○	1	1		1			
	ケアリング文化実習Ⅱ	1	1					○	1	1		1			
	ケアリング文化実習Ⅲ	2	1					○	1	1					
	ケアリング文化実習Ⅳ	3	1					○	1						
	ケアリング文化実習Ⅴ	4	1					○	1						
	基礎看護実習	2	2					○	1	1		1			
	地域・在宅看護実習	3	2					○	1	2					
	成人看護実習Ⅰ	3	2					○		2					
	成人看護実習Ⅱ	3	2					○	1	1		1			
	高齢者看護実習	3	2					○	1	2					
	小児看護実習	3	2					○	1						
	母性看護実習	3	2					○	2	1		1			
	精神看護実習	3	2					○	1	2					
	総合実習	4	2					○	5	9		2			
	小計 (14 科目)			23	0	0				8	11	0	2	0	
保健師教育学 看護学 公衆衛生 臨地実習	公衆衛生看護活動論	3		1				○	1	3				兼1	
	公衆衛生看護方法論Ⅰ	3		2				○	1	3					
	公衆衛生看護方法論Ⅱ	3		2				○	1	3					
	公衆衛生看護管理論	4		1		○			1	3				兼1	
	公衆衛生看護実習Ⅰ	4		1				○	1	3					
	公衆衛生看護実習Ⅱ	3・4		3				○	1	3					
小計 (6 科目)			0	10	0				1	3	0	0	0	兼2	
外国語科目 情報と外国語	総合日本語	1・2・3・4		2		○								兼1	
	初級日本語会話Ⅰ	1・2・3・4		2		○								兼1	
	初級日本語読解Ⅰ	1・2・3・4		2		○						1			
	初級日本語作文Ⅰ	1・2・3・4		2		○								兼1	
	初級日本語文法Ⅰ	1・2・3・4		2		○								兼1	
	初級日本語会話Ⅱ	1・2・3・4		2		○					1				
	初級日本語読解Ⅱ	1・2・3・4		2		○						1			
	初級日本語作文Ⅱ	1・2・3・4		2		○								兼1	
	初級日本語文法Ⅱ	1・2・3・4		2		○								兼1	
	中・上級日本語会話Ⅰ	1・2・3・4		2		○					1				
	中・上級日本語会話Ⅱ	1・2・3・4		2		○						1			
	中・上級日本語読解Ⅰ	1・2・3・4		2		○								兼1	
	中・上級日本語作文Ⅰ	1・2・3・4		2		○								兼1	
	中・上級日本語作文Ⅱ	1・2・3・4		2		○						1			
	中・上級日本語文法Ⅰ	1・2・3・4		2		○								兼1	
	留学生のためのアカデミックライティング	1・2・3・4		2		○						1			
	日本語演習	1・2・3・4		2		○						1			
	日本語Ⅰ	1・2・3・4		2		○								兼1	
	日本語Ⅱ	1・2・3・4		2		○								兼2	
	日本語Ⅲ	1・2・3・4		2		○						1		兼1	
	日本語Ⅳ	1・2・3・4		2		○								兼1	
	日本語Ⅴ	1・2・3・4		2		○								兼2	
	日本事情Ⅰ	1・2・3・4		2		○				1					
	日本事情Ⅱ	1・2・3・4		2		○				1					
	日本事情Ⅲ	1・2・3・4		2		○				1					
	日本事情Ⅳ	1・2・3・4		2		○				1					
小計 (26 科目)			0	52	0					4	2	7	0	0	兼16
合計 (195 科目)				119	221	0				89	80	58	23	0	兼112
学位又は称号	学士(看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学 (看護学関係)									
卒業要件及び履修方法									授業期間等						
									1学年の学期区分			2期			
									1学期の授業時間			15週			
									1時限の授業時間			90分			

・教養教育科目⇒必修14単位、選択14単位以上、計28単位以上

共通コア科目：必修10単位、選択6単位以上 計16単位以上を修得すること。

共通選択科目：必修4単位、選択8単位以上 計12単位以上を修得すること。

外国語科目：必修2単位、選択2単位以上を修得すること。

国際理解科目：選択2単位以上修得すること。

人文科学科目：選択2単位以上修得すること。

社会科学科目：選択2単位以上修得すること。

自然科学科目：必修2単位修得すること。

・専門基礎教育科目⇒必修26単位以上

人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進：必修18単位以上修得すること。

健康支援と社会保障制度：必修8単位以上修得すること。

・専門教育科目⇒必修77単位以上

【専門分野】

基礎看護学：必修11単位修得すること。

地域・在宅看護学：必修6単位修得すること。

成人看護学：必修6単位修得すること。

高齢者看護学：必修4単位修得すること。

小児看護学：必修4単位修得すること。

母性看護学：必修4単位修得すること。

精神看護学：必修4単位修得すること。

看護の総合と実践：必修15単位以上修得すること。

【臨地実習】

臨地実習：必修23単位修得すること。

・合計⇒131単位以上

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻(D))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護学研究特論	<p>(概要)</p> <p>看護学における科学の位置づけと歴史や哲学的基盤、パラダイムについて概観し、看護の知を発展させるための研究の意義を考究する。また、科学的アプローチとして、量的・質的研究、及び混合研究法の特徴と限界を理解したうえで、既存の看護学分野の研究論文を批判的・建設的に読み解く能力を育成する。さらに、看護における実践的課題の解決に資する研究手法について討議し理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 グレグ美鈴/7回)</p> <p>看護学の歴史について概観し看護研究の意義、哲学的基盤とパラダイムについて考究する。また、質的研究方法（現象学、グランデッド・セオリー・アプローチ、エスノグラフィーなど）の手法を理解し、質的研究デザインを用いた文献をクリティークし研究論文の読み解く力を養う。</p> <p>(4 玉井なおみ/3回)</p> <p>研究倫理、研究疑問から研究デザインの設定と概念枠組みを学習する。また、研究の統合的アプローチとして混合研究法を修得する。</p> <p>(16 木村安貴/4回)</p> <p>量的研究方法（相関分析、多変量解析、ロジスティック回帰分析、クラスター分析など）の手法を理解する。また、データ整理、アウトカム評価の方法を学習する。量的研究デザインを用いた文献をクリティークし、研究論文の読み解く力を養う。</p> <p>(1 グレグ美鈴・4 玉井なおみ・16 木村安貴/1回)</p> <p>(共同)</p> <p>国内外の論文から学生自身の研究課題に関連したテーマを選び、研究デザイン、研究倫理等の視点から議論する。また、これまでの学習を振り返り、学生自身の研究課題から研究の方向性を検討する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共 通 科 目	沖縄のケアリング 文化と看護	<p>(概要)</p> <p>地域で暮らす人々の健康を増進し、誰もが住み慣れた地域で生き生きと安心して生活を継続し、その地域でその人らしく人生の最期を迎えることができる地域の特徴を活かした看護実践の検討は重要である。本科目はまず、ケアリングに関する主要な理論を概観し、沖縄の歴史や文化的特徴から暮らしの中で育まれてきたケアリングの現象（県民性、生活スタイル、言語、祭祀等）を学習する。これらの学習を踏まえ、沖縄で特徴的な人々の健康課題について考察し、沖縄のケアリング文化を活かした看護の在り方を探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 鈴木啓子／1回)</p> <p>沖縄ではアルコール依存症、うつ、自殺などの問題が多いが、特に自死をめぐる未遂者及び自死遺族支援に焦点を当て、沖縄のケアリング文化を踏まえた支援の在り方について検討する。</p> <p>(3 小西清美／1回)</p> <p>沖縄の産育文化を県外や台湾と比較し、沖縄の地域特性と課題を踏まえた安心した子育てを考察する。</p> <p>(6 宇座美代子／1回)</p> <p>沖縄の伝統文化に関連した看護の知識や対応技術の方法を踏まえて、看護職の地域看護活動の在り方について探究する。</p> <p>(7 永田美和子／3回)</p> <p>国内外のケアリングに関連する文献及び理論からケアリングを考究する。合わせて、沖縄のケアリングの様相を学習し、地域特性を活かした地域包括ケアシステムについて検討する。</p> <p>(10 田場真由美／1回)</p> <p>沖縄の互酬性（相互扶助）の強さは、ソーシャル・キャピタルの1つである「ゆいまー」とも言える。「強固すぎる絆」や離婚率の高さや、祖先崇拝の影響から沖縄特有な「8050」の課題を中心に地域ケアと地域づくりについて解決策を探究する。</p> <p>(12 大城凌子／2回)</p> <p>沖縄の暮らしの中に根付いている相互扶助である「ゆいまー」の歴史的背景を学習し、近年の特性や課題を移民、県人会、模合などの活動内容から検討する。</p> <p>(17 波照間永吉／2回)</p> <p>沖縄の文化的特性である言語に焦点をあてて、暮らしの中に根付いている言語（沖縄語）の歴史と特性について学習し、看護と言語の関連について検討する。</p> <p>(18 山里純一／2回)</p> <p>沖縄の文化的特性であるまじない（祭事、医者とユタ）に焦点をあて、暮らしの中におけるまじないの歴史と特性について学習し、看護とまじないの関連について検討する。</p> <p>(7 永田美和子・12 大城凌子・17 波照間永吉・18 山里純一／1回) (共同)</p> <p>中間全体討議として、沖縄の暮らしの中でのケアリングの現象をこれまでの学習を通して多角的に考察する。</p> <p>(2 鈴木啓子・3 小西清美・6 宇座美代子・7 永田美和子・10 田場真由美／1回) (共同)</p> <p>最終全体討議として、沖縄のケアリング文化を活かした有効な看護の在り方をこれまでの学習を通して多角的に考察する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共 通 科 目	沖縄の保健看護政策特論	<p>(概要)</p> <p>沖縄の保健医療看護政策の歴史の変遷を踏まえ、沖縄県の健康問題と求められる保健看護政策について検討し、社会や環境の変化を見据えた「地元創成」につながる保健看護政策について多角的に探究する。沖縄は、琉球王国時代からアジア各国との交易から形成された文化・生活習慣を持ち、大戦での壊滅的被害からの復興、米国統治下の先駆的公衆衛生活動の展開、その後の日本の保健看護政策への移行と独自の保健看護政策が実施されてきた。このような背景を理解し、健康課題を解決する保健看護政策について探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 宇座美代子／5回)</p> <p>国内と沖縄県の保健看護政策の歴史を教材に学習する。特に、全国でも稀であった沖縄県における「駐在保健婦制度」を教材に看護職の「地元創成」に繋がる知識と技術を探究する。</p> <p>(10 田場真由美／4回)</p> <p>第二次世界大戦後の心身の健康や生活の状況や歴史的な保健看護政策から、現在の健康課題の解決策を教材に、看護職の「地元創成」に繋がる知識と技術を考察する。</p> <p>(19 赤嶺 守／1回)</p> <p>沖縄は日本の最南端に位置する亜熱帯地域で、本土とは気候も風土も異なる。講義では琉球王国時代の士族や庶民の生活の様相を紹介し、医史関係記事を通して民間療法を含む医療史の理解を深める。</p> <p>(20 嘉納英明／1回)</p> <p>沖縄の集落公民館は、行政事務等の自治組織としての活動、生年祝い等の年中行事、芸能等の地域文化活動、農事組合等による共同の生産活動等、その活動内容は多岐にわたる。本講義では、特に、米国統治下における集落公民館の活動の中でも、住民の生活環境保全や食料の自給増産、保健衛生面における改善等について検討する。</p> <p>(6 宇座美代子・10 田場真由美・19 赤嶺 守・20 嘉納英明／1回) (共同)</p> <p>第1回全体討議として、琉球王朝時代から第二次大戦後の生活と保健看護政策についてこれまでの学習を通して多角的に考察する。</p> <p>(10 田場真由美・20 嘉納英明／1回) (共同)</p> <p>貧困、高齢化、過疎化の課題を持つ 沖縄県北部地域を教材に、住民の生活と健康課題の関連を明確にし、看護職の「地元創生」に繋がる考え方や知識、技術を探究する。</p> <p>(6 宇座美代子・10 田場真由美／1回) (共同)</p> <p>第2回全体討議として、沖縄の健康課題と保健医療福祉の変遷から沖縄発の健康長寿への保健看護政策についてこれまでの学習を通して多角的に考察する。</p> <p>(6 宇座美代子・10 田場真由美・20 嘉納英明／1回) (共同)</p> <p>最終全体討議として、北部地域及び島嶼僻地地域の地域性から健康長寿、地元創成につながる保健看護政策についてこれまでの学習を通して多角的に考察する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共 通 科 目	生体環境看護科学 特論	<p>(概要) 生活環境における快、不快の外部環境の変化により生体の内部環境である自律性調節機構が働き、生命及び健康を維持している。生体内外の環境の変化を捉え、自律性調節機構を調整することは重要である。まず、(1) 個体レベルでの自律性調節機構について学習し、次に外部環境は主として生活の場により構成されていることを踏まえ、(2) 生活環境が生体(心身)に及ぼす影響について学習する。これらの学習を踏まえ、(3) 生体内外の環境の変化及び調節機構を評価する指標の開発や科学的エビデンスに基づいた看護実践を探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 小西清美/2回) 精油による芳香浴、足浴、手浴の「心地よい(快)ケア」が自律神経に及ぼす影響及び課題負荷(不快)が課題遂行力に及ぼす影響について、主観的・客観的指標から介入方法を検証し、看護実践を探究する。</p> <p>(4 玉井なおみ/2回) 国内外の先行研究から、がんサバイバーに対する運動がもたらす身体的影響として、治療や予後、副作用との関連について考察し、さらに精神的影響として、QOL、不安、自己効力感との関連について考察する。これらのことから看護実践を探究する。</p> <p>(13 花城和彦/2回) 生命及び健康の維持の基盤となる生体の恒常性維持のための神経系・内分泌系・免疫系の相互作用について考察し、生体内外の環境変化及び調節機構を評価する指標の開発を探究する。</p> <p>(14 砂川昌範/2回) 動植物由来成分等が生体に及ぼす影響を検証し、生体内外の環境変化における評価指標の開発を探究する。</p> <p>(16 木村安貴/2回) がん治療が食に関連する感覚器に及ぼす影響及び食事摂取障害とQOLとの関係を学習し、評価指標や看護実践を探究する。</p> <p>(21 小坂橋喜久代/3回) 看護者がリラクゼーション技法を適用できるようになることを目標に、看護介入としての呼吸法、漸進的筋弛緩法、イメージ法、自律訓練法、瞑想法を概説し、リラクゼーション法の研究・教育・実践を踏まえ、看護介入法の評価指標や看護実践を探究する。</p> <p>(3 小西清美・13 花城和彦・14 砂川昌範/1回) (共同) 生体内外の環境により生体の自律性調節機構や分子・細胞レベルにおける調節機能に関する学習を踏まえ、人を対象とした看護研究における指標の開発について検討する。</p> <p>(3 小西清美・4 玉井なおみ・16 木村安貴・21 小坂橋喜久代/1回) (共同) 沖縄の生活環境の特性を踏まえ、生体環境看護科学の科目の意義を考察し、学際的な研究方法を学習し、学生の関心のある研究課題について、看護実践方法の構築に繋がるよう、検討する。</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	看護教育学特論	<p>(概要)</p> <p>看護教育学に関する主要な理論として、成人学習理論、省察的実践理論、変容的学習理論などを学ぶ。学生が関心のある看護教育学領域（基礎教育、継続教育、卒後教育）の現象を選択し、文献検討を行い、既習の理論と実証的研究から選択した現象を分析し言語化することで現象の理解を深める。また、選択した現象について理論とエビデンスを統合し、看護教育学における研究の課題を明らかにすることを目的とする。さらに、沖縄のケアリング文化を踏まえ看護教育学がいかに体系化できるかを探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 グレッグ美鈴／13回)</p> <p>成人学習理論、省察的実践理論、変容的学習理論などを学び、学生が関心のある看護教育学領域（基礎教育、継続教育、卒後教育）の現象を選択し、文献検討を行い、既習の理論と実証的研究から選択した現象を分析し言語化することで現象の理解を深める。その上で、選択した現象について理論とエビデンスを統合し、看護教育学における研究の課題を明らかにする。</p> <p>(1 グレッグ美鈴・22 嘉手苺英子／2回) (共同)</p> <p>沖縄における看護教育制度は、王府時代、戦時体制下、終戦直後の米国統治下、その後の琉球政府下、そして日本政府による全国共通の教育制度の導入と、大きな時代背景の変化の中で営まれてきた。沖縄の人々の健康はどのように守られてきたかを、現状における課題も含めて検討し、沖縄のケアリング文化を基盤とした看護教育学について検討する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
専門 科目	看護キャリア開発学特論	<p>(概要)</p> <p>専門職としての看護職の発達を個人と組織の観点から捉え、看護キャリア開発に関わる現象を多角的に探究する。そのために、まずキャリア開発に関する主要な理論としてキャリア発達理論、計画的偶発性理論などを学ぶ。次にキャリア開発に関わる主要な概念として、専門職、キャリアデザイン、職業的アイデンティティなどを学ぶ。これらの学習に基づき、看護キャリア開発学に関して自身の関心のある現象を取り上げ、既習の理論及び概念を用いて関連性を明確にする。次に関心のある現象の文献検索を行い、文献をクリティークする。それを基に看護キャリア開発学の体系化に資する研究課題を明確化することを目的とする。</p>	
応用 看護学	がん看護学特論	<p>(概要)</p> <p>がんサバイバーシップの概念を基にがんの診断時期から終末期まで、がんと共に生きる人々とその家族の体験を広い視野から概観し、全人的かつ地域文化に根ざした看護実践の土台となる理論や概念を探究する。さらに、国の施策と動向、社会的ニーズを踏まえ、課題の明確化や理論構築、看護介入モデルや評価尺度の開発等、がん看護学領域に求められる課題解決に向けたエビデンスの構築や理論開発の方略を学ぶ。それを基にがん看護学に寄与しうる新たな知識の創出を目指し、その学問的発展を導く能力を養うことを目的とする。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	応 用 看 護 学	<p>(概要)</p> <p>女性と子ども及び家族の健康課題を解決するために、関連する諸理論の理解を深め、エビデンスに基づく看護実践方法を学習し、女性と子ども及び家族が自らのもつ力を発揮できる支援に関する看護の役割を探究する。また、妊娠から出産、小児、思春期、成人への発達、そして妊娠というサイクルに関わる成育医療を支える看護学を探究する。各自の関心のあるテーマに関連した既存文献を系統的に吟味・講読し、女性と子ども及び家族の健康課題に対する看護実践方法を開発する能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(3 小西清美／7回)</p> <p>成育健康看護に関わる理論であるアタッチメント理論、セルフケア看護理論、癒しケア・ケアリング理論を取り上げ、女性の健康問題である月経随伴症状の緩和や母子の切れ目のない支援に関する課題について、女性と子ども及び家族が自ら持つ力を発揮できるように科学的根拠に基づく看護実践を考究し、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(8 流郷千幸／7回)</p> <p>成育健康看護に関わる理論である子どものセルフケア看護理論、成長・発達理論を取り上げ、子どものストレス、子どものプレパレーションに関する課題について、親や子どもが自ら持つ力を発揮できるように科学的根拠に基づく看護実践を考究し、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(9 島田友子／6回)</p> <p>成育健康看護に関わる理論である母親役割獲得理論、家族看護論を取り上げ、母親の子育て不安・ストレス、貧困、社会的リスクの課題について女性と子ども及び家族が自ら持つ力を発揮できるように科学的根拠に基づく看護実践を考究し、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(11 阿部正子／6回)</p> <p>成育健康看護に関わる概念であるリプロダクティブヘルス/ライツやジェンダー、フェミニズム理論を取り上げ、妊孕性、生殖補助医療に関する課題について、女性が自ら持つ力を発揮できるように科学的根拠に基づく看護実践を考究し、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(3 小西清美・8 流郷千幸・9 島田友子・11 阿部正子／4回) (共同)</p> <p>国内外の文献を検討し、成育健康看護に用いられる概念や諸理論を学習し、女性と子ども及び家族の健康課題と支援に関する現状と課題を明確化する。さらに、実証的研究や看護介入モデルについて多角的に検討し、女性と子ども及び家族が自ら持つ力を発揮できるように科学的根拠に基づく看護実践を検討する。さらに、地域文化を踏まえ、成育医療を支える看護学を探究する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	生 活 支 援 看 護 学	<p>(概要) 対象である個人、集団及び地域の健康増進、QOLの向上となる看護活動に活かせる理論やモデルを学び、最新の研究成果や実践の動向、政策を分析し、地域包括看護学領域の研究の現状と課題を明らかにする。個人/家族レベルや地域レベル、社会レベルにおける生活と健康問題を概観し、既存の研究成果や理論に基づき、看護介入方法や理論を開発する能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(5 稲垣絹代/2回) 社会的弱者が安心して地域で生活するための差別・偏見・人権の概念と理論を考究し、個人・家族・集団・地域という視点から多面的に検討し、科学的根拠に基づく自己の課題を明確にする。</p> <p>(6 宇座美代子/2回) 地域包括看護の基盤となるコミュニティディベロップメント、ヘルスプロモーションの概念と理論を考究し、沖縄の歴史と文化に根差した地域・在宅看護活動という視点から多面的に検討し、科学的根拠に基づく自己の研究課題を明確にする。</p> <p>(7 永田美和子/2回) 地域で生活する高齢者が安心して住み慣れた地域でその人らしく生活するためのケアリング及びストレングスの概念とその理論を考究し、個人・家族・集団・地域という視点から多面的に検討し、科学的根拠に基づく自己の課題を明確にする。</p> <p>(10 田場真由美/3回) ケアシステムの基盤となるソーシャルキャピタルやメンタルヘルスの概念と理論を考究し、過疎地域で生活する人々のケアシステムについて個人・家族・集団・地域という視点から多面的に検討し、科学的根拠に基づく自己の研究課題を明確にする。</p> <p>(12 大城凌子/2回) 最後まで自分らしく暮らせる地域・支援の基盤となるエンパワメントや文化の概念とその理論を考究し、沖縄の文化として継承されてきた様々な現象を、個人・家族・集団・地域という視点から多面的に検討し、科学的根拠に基づく自己の課題を明確にする。</p> <p>(5 稲垣絹代・6 宇座美代子・7 永田美和子・10 田場真由美・12 大城凌子/5回) (共同) 地域・在宅支援方法の特性とケアシステムの基盤となる概念及び理論的背景について、国内外の文献を学際的に検討し、地域で生活する人々の健康課題とその関連要因について考究する。合わせて、地域文化を踏まえた地域・在宅看護に関連する諸理論及び看護実践モデルについて検討する。</p> <p>(5 稲垣絹代・7 永田美和子・12 大城凌子/7回) (共同) 地域に生活する人々の健康課題に関して、在宅看護の視点から諸理論及び看護実践モデルの成果、限界、課題について多角的に検討する。</p> <p>(6 宇座美代子・10 田場真由美/7回) (共同) 地域で生活する人々の健康課題について、地域文化を踏まえつつ公衆衛生看護に関連する諸理論及び看護実践モデルを用いて多角的に検討する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	生 活 支 援 看 護 学	<p>(概要) 精神的健康問題を抱え生きる人とその家族の権利が擁護され、生活の質の向上に寄与するための看護実践の探究や課題の明確化のため、基盤となる理論について学ぶ。合わせて精神保健看護に関する現象を多角的に探究するため複数の概念を取り上げ検討する。これらの学習及び文献検討に基づき、精神保健看護に関わる自身の関心のある現象を取り上げ、既習の理論及び概念を用いて関連性を示し、研究課題を明確化する。これにより、精神保健看護学に寄与する地域文化を踏まえた知識の創出や学問的発展を導く能力を養うことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(2 鈴木啓子／9回) 精神保健看護学で用いられる有用な概念を取り上げ、概念分析及び既習理論と概念の検討を行う。また、科学的根拠に基づく質の高い看護ケアやモデル等、地域文化に根差した看護実践上の本質的な課題をとらえ、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(15 村上満子／7回) 地域で暮らす精神障害者の健康問題及び関連要因にかかわる体験、物語、レジリエンス、リカバリ等の概念を取り上げ、精神障害者とかかわる周囲の人々のあり様の回復への影響について多面的に検討する。合わせて概念分析及び既習理論と概念の検討を行う。また、科学的根拠に基づく質の高い看護ケアやモデル等、地域文化に根差した看護実践上の本質的な課題をとらえ、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(2 鈴木啓子・15 村上満子／14回) (共同) 精神保健看護学で用いられる有用な概念及び諸理論を取り上げ、精神保健看護にかかわる現象を分析的に検討し、研究課題の探究にあたり必要となる概念枠組みや研究方法と諸理論、概念の関係について考究する。合わせて地域文化を踏まえた精神保健看護に関する諸理論及び看護実践モデルについて検討する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	看護学特別研究	<p>(概要)</p> <p>主とする分野（基盤看護学分野、応用看護学分野、生活支援看護学分野）の特論の学習を基に研究の遂行に必要な能力を高める。具体的には、個々の興味・関心に基づき累積した学習成果を活用して研究課題の焦点化をはかり、研究方法の決定を行い、研究計画書を作成する。研究計画に基づきデータを収集し、分析・考察し新たな知見を提示する。最終成果として、学位論文を作成し、発表、審査を受ける。これらの一連の研究過程を通し、研究者として自律して研究活動を行い、教育を担い得る能力、専門的な業務に従事するために必要な研究能力と看護専門職者としての研究的態度を修得する。</p> <p>(1 グレッグ美鈴)</p> <p>変化する社会の要請に応える専門職としての看護職者のキャリア開発を、個人及び組織の視点から捉え、看護キャリア開発のあり方を学術的に探究する。そのためにグローバルにどのような研究が必要かを国内外の文献検討によって明確化する。研究課題にふさわしい研究デザイン及び研究手法を選択し、研究参加者に十分な倫理的配慮をした研究計画を立案する。研究計画に基づき研究を実施、データ分析を行う段階では、研究の厳密性を確保する。自律して論文執筆を行い、看護キャリア開発のあり方に学術的に貢献する研究として世に問うことのできる能力を養う。さらに研究指導を受ける一連のプロセスにおいて、後進の育成方法を身につけるとともに、自身のキャリア開発を熟考する。</p> <p>(2 鈴木啓子)</p> <p>精神的健康問題とその関連要因を探究し、健康問題を抱える人の生活の質の向上に寄与することのできる研究課題と研究方法を地域文化を踏まえて探究する。国内外の文献の検討を通して最新の研究の動向を探究し、諸課題を概観した上で精神保健看護に関する自己の研究課題と研究目的を明確化し、目的に即した研究方法を適切に検討し研究計画を立案する。計画書に基づき研究の一連の過程を倫理的に実施し、研究成果については論理一貫性、新規性・独創性のある博士論文として執筆し、自律して研究を推進する能力と共に教育を担い得る能力を養う。研究成果は、国内外の学会や学術誌等で公表し、精神保健看護学の発展及び看護実践の理論構築に寄与する能力を培う。</p> <p>(3 小西清美)</p> <p>女性及び妊産褥婦に関する健康問題を解決するために、女性ホルモンの変動に伴う心身への影響を踏まえ、女性自身が持っている力を発揮できる助産ケアを提供できるエビデンスに基づく助産師の実践力向上支援を探究する。国内外の文献の検討を通して、最新の研究の動向を探究し、各自の研究課題を明確化し、研究方法の決定、研究計画書を作成する。研究計画に基づきデータを収集し、分析・考察し新たな知見を提示する。一連の研究過程を通し、研究者として自律して研究を遂行できる能力を修得し、母性・助産学の発展及び地域文化に基づく看護介入モデル構築に資する研究の発展に寄与する能力を養う。</p> <p>(4 玉井なおみ)</p> <p>がんサバイバーシップの概念を基に、がんの診断時期から終末期までがんとともに生きる人々とその家族に対する援助方法や課題解決の方略を探究し、概念や理論を考究する。国内外の文献の検討を通して最新の研究の動向を探究し、自己の研究課題を焦点化したうえで研究デザインを考究し、研究計画を立案する。作成した研究計画書に基づき、データ収集、分析を行い、研究を遂行する過程を学習する。得られた成果を論理一貫性、新規性・独創性のある博士論文として執筆する過程を通して、自立して研究を推進できる能力と共に教育を担い得る能力を養う。研究成果は、国内外の学会や学術誌等で公表し、がん看護学の発展及び地域文化に基づく看護実践の理論構築に寄与する能力を培う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	看護学特別研究	<p>(5 稲垣絹代)</p> <p>東アジアと沖縄の近代から現代までの歴史を多面的に学習し、社会的に排除され、差別的な健康被害を受けている人々の研究課題について、実践的な援助方法を探究するために、研究目的に即した適切な研究計画を立案する。研究は、フィールドワークに焦点を当てるため主に質的帰納的な研究デザインとなるが、データに向かう態度を学び、深い洞察の視点で分析・考察する能力を養う。また、博士論文を作成し自立して研究を遂行できる能力を修得し、在宅看護学及び沖縄のケアリング文化に基づく看護介入モデルの構築に寄与する能力を養う。</p> <p>(6 宇座美代子)</p> <p>地域の地理的・歴史的・文化的背景を踏まえつつ、地域における健康課題と生活文化の関連要因を探究し、地域で生活する人々の健康支援の方法論を探究する。そのために国内外の文献検討により最新の研究の動向を把握し、自己の研究課題と研究目的を明確化する。研究課題や目的にふさわしい研究方法を選択し研究計画を立案する。立案した計画書に基づき研究の一連の過程を倫理的に実施し、研究成果については論理一貫性、新規性・独創性のある博士論文として執筆し、自律して研究を推進する能力と共に教育を担い得る能力を養う。研究成果は、国内外の学会や学術誌等で公表し、公衆衛生看護学の発展及び沖縄のケアリング文化に基づく看護実践の理論構築に寄与する能力を養う。</p> <p>(7 永田美和子)</p> <p>高齢者の健康問題に関連した要因を探究し、実践的に解決できる研究成果を目指す。特に、地域で生活する高齢者の健康及び生活の質の維持向上の支援に関して、地域のケアリング文化に基づく新たな地域包括ケアシステムの構築につながる研究課題について、研究目的に即した適切な研究を検討し研究計画を立案する。質的帰納的研究方法と多変量解析を用いた統計的手法を組み合わせて研究を行う。博士論文を作成し自立して研究を遂行できる能力を修得し、高齢者看護学及び沖縄のケアリング文化に基づく看護介入モデルの構築に寄与する能力を養う。</p> <p>(8 流郷千幸)</p> <p>子どもの権利を保証する観点から、医療を受ける子どもと家族が抱える課題を探究し、実践的に解決できる研究成果を目指す。そのために、医療を受ける子どもの不安や痛み、対処能力を引き出すプレパレーションについて学習し、フィールドワーク及び国内外の研究成果を通して自己の課題を明確化する。研究目的に即した適切な研究計画を立案し、質的帰納的研究方法と統計的手法を組み合わせて研究を行う。博士論文を作成し自立して研究を遂行できる能力を修得し、小児看護学の発展に寄与する能力を養う。</p> <p>(9 島田友子)</p> <p>次世代の育成を支援する観点から、親になる過程や、ライフサイクル各期の過程における女性の心理社会的特性を捉え、地域文化の特性を踏まえた実践的な支援方法を探究する。子育て支援、社会的に不利益を被りがちな女性支援、思春期支援の政策的変遷についての国内外の先行研究を通して研究課題に関連する概念や理論、地域文化との関連、現状と課題を捉えたいうえで、研究目的を明確化する。研究目的に即した適切な研究を検討し、研究計画を立案する。また、学位論文を作成し、研究者として自律して研究活動を遂行できる能力を修得し、看護・助産学の発展に寄与する能力を養う。</p> <p>(10 田場真由美)</p> <p>公衆衛生看護学の視点から住民や地域の身体的、精神的、社会的健康課題と保健師の活動の関連要因を探究し、地域文化習慣と貧困や障害者、高齢者等の弱者支援に活かせる公衆衛生看護の向上に寄与できる実践モデル、研究課題・方法を探究する。そのため、国内外の文献と我が国のビックデータ、社会的課題から最新の研究の動向を概観した上で、自己の研究課題と研究目的を明確にし、適切な研究方法、研究計画を立案する。研究計画書に基づき研究過程を倫理的に遂行し、その成果を論理的一貫性、新規性、独創性、実践可能性のある博士論文として執筆する。また、その成果を国内外の学会や学術誌にて公表し、自律して研究を遂行する能力と協働する能力及び公衆衛生看護学の発展と沖縄のケアリング文化に基づいた看護実践に活かす看護理論の構築に寄与する能力を培う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻 (D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	看護学特別研究	<p>(11 阿部正子)</p> <p>リプロダクティブ・ヘルスとジェンダーの視点から、最先端医療技術の発展・応用範囲の拡大に伴う個人や社会、未来に与える影響、人間の尊厳や法令への準拠など倫理上の課題を掘り下げ構造化する。さらに問題解決に寄与しうる専門的看護援助や教育方法、地域の文化・風土の特性を視野に入れた看護実践について国内外の研究成果を広く概観し、看護独自の支援理論やケア技術を探求する。これらのプロセスを通して【研究する人間】としてのセンシティブティを養い、エビデンスに基づいた看護実践にまで発展させることを目指した研究課題の設定、適切な分析方法の選定、倫理的配慮を踏まえた研究計画の立案を行う。個人や家族、コミュニティとの社会的相互作用の視点を確保し、データの解釈と深い洞察による結果の厳密性の確保、Grounded on dataによる分析結果の信頼性の担保を行う。結果に基づき独自の看護理論及び生成された理論の実践的活用を提示する。博士論文を作成し自立して研究を遂行できる能力を修得し、母性看護学の発展に寄与する能力を養う。</p> <p>(12 大城凌子)</p> <p>沖縄の文化として受け継がれてきたケアリングの在り様を学術的に探究し、自分らしく暮らせる地域づくりを支援する実践的方法を探求する。特に、地域の看取りの文化とコミュニティアケアに関する国内外の文献検討を通して、最新の研究動向を分析し、研究課題の明確化、研究方法の決定、研究計画書を作成する。研究計画に基づき介入調査を通してデータを収集、分析・考察し、コミュニティアケアに関する新たな知見を提示する。一連の研究過程を通して、研究者として自律して研究を遂行できる能力を修得し、在宅看護学及び沖縄のケアリング文化に基づく看護介入モデルの構築に寄与する能力を培う。</p> <p>(15 村上満子)</p> <p>精神疾患を抱える人の主体性を尊重する看護実践知や、精神健康の維持・向上に資する研究課題と、それを解明するための研究方法論を探求する。研究課題に関連する国内外の文献検討により研究課題の歴史的・文化的・地理的背景及び最新の研究動向を概観し、自己の研究課題を明確化する。研究課題の目的を達成するために、最も適切な研究方法論を検討し、研究計画を立案する。計画書に基づき一連の研究過程を、倫理的配慮を踏まえて実施し、得られた成果を論理一貫性、新規性・独創性ある博士論文として完遂させる。研究成果を国内外の学会等で公表し、精神看護学の実践や理論の構築に寄与する能力を培う。研究を自立して推進する能力と共に、解明した知見を広く伝える教育能力を養う。</p> <p>(16 木村安貴)</p> <p>がんを患いながらもその人らしく生きることを継続的に支援するために、がん患者やその家族が直面する全人的な苦痛を捉え、地域文化の特性を踏まえた実践的な支援方法を探求する。国内外の先行研究を通して研究課題に関連する概念や理論、地域文化との関連、現状と課題を捉え、研究目的を明確化する。研究目的を達成するために、様々な分野の研究手法に視点を広げ、最も適切な研究方法を捻出し、倫理的配慮を踏まえたうえで研究計画を立案する。研究計画に基づき、データ収集においては十分な技術を習得したうえで、観察力及び洞察力を駆使して実施する。得られたデータは客観的かつ批判的に分析し、論理一貫性、新規性・独創性のある博士論文を執筆する。研究成果は国内外の学会や学術学会等で公表し、一定の評価を受けることで、研究課題に対する俯瞰的な視点を養う。これら研究活動のプロセスを通して、がん看護学の発展及び看護実践に寄与する研究能力を培う。</p>	

公立大学法人名桜大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由										
名桜大学 国際学群 国際学類 280 15 1,150 人間健康学部 スポーツ健康学科 95 5 390 看護学科 80 5 330 <hr/> <div style="text-align: right;">計 455 25 1,870</div>				名桜大学 <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">3年次</div> 国際学群 国際学類 280 15 1,150 人間健康学部 スポーツ健康学科 95 5 390 看護学科 80 5 330 <hr/> <div style="text-align: right;">計 455 25 1,870</div>					名桜大学大学院 国際文化研究科 国際文化システム専攻(M) 6 - 12 国際地域文化専攻(D) 2 - 6 看護学研究科 看護学専攻(M) 6 - 12 看護学専攻(D) 2 - 6 <hr/> <div style="text-align: right;">計 6 12</div>				名桜大学大学院 国際文化研究科 国際文化システム専攻(M) 6 - 12 国際地域文化専攻(D) 2 - 6 看護学研究科 看護学専攻(M) 6 - 12 看護学専攻(D) 2 - 6 <hr/> <div style="text-align: right;">計 16 36</div>					
				研究科の専攻に係る課程の変更 (認可申請)														

特記：学部名称、研究科名称および入学定員等は、変更する場合があります。